

## 第4回「絆・ベルリン」ボランティア活動報告

今回の活動の特徴は、これまでの側溝の泥上げなどの肉体労働的な活動だけではなく、コンサートなど初めて試みられた活動もあったので、作業別に紹介したい。時系列には沿っていないが、活動の全体理解には差し支えないと思う。今回も前回同様大船渡市の福祉の里センターに泊まり、約1時間の車走行で到達できる近隣の被害地域で様々な活動をした。また最後に日別活動表と参加者リストを載せたので、参考にして頂きたい。最終日に行われた「翼」プロジェクトに応募した岩手県高校生の選考面接についても報告する。いくつかの項目を追記にした理由は、5月19日の朝にグループを一応解散し、有志(メンバーの半分以上)のみが参加した活動の報告だからである。

### 目次

#### 大船渡への移動(10日:車で)

- 1) 側溝の泥上げ(12日:大船渡)
- 2) 演奏会(11日:上長部、16日:立根町、17日:長洞仮設住宅団地)
- 3) 植樹(11日:上長部)
- 4) 牡蠣の株分け(15日:陸前高田)と漁港見学(17日:大船渡)
- 5) 田植え(16日:陸前高田市気仙町)
- 6) 「かならずら」プロジェクト(13日:大槌町)
- 7) 畑の小石拾いと犠牲者の碑(14日:気仙沼)
- 8) 「翼」プロジェクト(岩手県高校生のベルリン招待):面接(18日:遠野市)
- 9) お別れ会(18日:福祉の里センター)
- 10) 追記(19日:車で南下)
- 11) 追記(21日:希望の牧場)
- 12) 追記(5月24日:市川市の復興支援チャリティコンサート)
- 13) 追記(6月2日:福島市の六魂祭)
- 14) 追記(6月7日:「絆・ベルリン」活動報告。桜美林大学東アジア研究会にて)
- 15) 追記(これからの活動)
- 16) 日別活動表
- 17) 参加者リスト

#### 大船渡への移動(10日:車で)

今回はいつも車で参加してくれた市川の仲間が一人参加できなかったため、8人乗りのレンタカーを借りた。市川の店でボランティア活動のために借りるのだと伝えると、会員になれば安くしてくれるというので、村松さんが会員になり、3割ほど安くしてもらった。

村さんの車とレンタカーの二台で大船渡に向けて朝7時半に市川を10人で出発する。レンタカー

は市川の石井さん、さらにフランク・バイヤーが運転する。途中3回ほど休憩し、無事に4時過ぎに定宿の福祉の里センターに到着する。東京から北に昇るにつれ、山の緑が淡くなり、北国の春だなと実感する。山腹のところどころに山桜らしい白いスポットが浮かび上がり、目を楽しませてくれる。同時に本居宣長の「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」を思い出す。どちらかといえば、日本的な要素を否定して生きて来た自分の中にこのような日本人の美的感覚が残されていたことに我ながら驚いた。さらに今回同行できなかった友人を思った。

残りの4人は新幹線で一ノ関に、さらにBRTバスに乗り換え、我々車組と前後して定宿の福祉の里センター(朝ご飯と夕飯付きで3千円弱の安さや広いお風呂と部屋が魅力)に到着した。

### 1) 側溝の泥上げ(12日:大船渡)

ボランティア活動の定番とも言える側溝の泥上げ(津波によって海底の泥が側溝に運ばれ、ガラスや生活用品などが詰まっている)は12日に大船渡で行った。大船渡市の津波に襲われた中心地はすでに復興区画整理が終了し、建設の槌音が響いている。大船渡ボラセン(ボランティア・センターの略。金、土、日の三日間だけ開かれている)も余り人がいなく、参加者は地元の方4名と我々12人だけだった。場所は再び越喜来湾で、作業場所は大分奥まったところにあった。前回まで見られた破壊された小学校や郵便局の建物も撤去され、更地になっていた。普通のより幅が広い側溝の中は水が流れていて、ゴム長が30センチほど沈み、やりづらかった。だが、午前中で20メートル以上泥を上げ、きれいにした。地元の4人の方は週末ということで参加されたそうだが、熟練工並みの作業ぶりに感心した。リーダー格の最上さんはすでに2年間もボランティアをしている方で、年金者だそうだ。名前に相応しく金太郎と呼ばれた力持ちのひょうきんな若者はしょっちゅう大船渡弁でジョークを飛ばし、周りを笑わせていた。



## 2) コンサート(11日:上長部、16日:立根町、17日:長洞仮設住宅団地)

今回は元オペラ歌手のフラウケと、趣味で長年フルートをたしなんできた大クラウス(身体が大きいので通称大クラウス。クラウス・シュナレンベルガー)が参加したので、コンサートを企画した。メインは上長部の12月9日に竣工式を祝ったベルリン・ハウスでのコンサートだった。すでに報告したように、このベルリン・ハウスは、我々が仲介し、ベルリンの独日協会の寄付金で建てられた公民館なので、ぜひとも実現したかった。伴奏用のピアノもなかったのが、今年の1月に日経新聞の文化欄で紹介されていたNPO「被災地にピアノを」に連絡したところ、会長の庄司美知子さんから早速返事が来た。何度かメールをやり取り、また電話で話し合った結果、搬入するとの連絡が5月初めにあった。11日の朝にベルリン・ハウスに到着し、中をのぞいたところ、5月8日に搬入されたアップライトピアノがピカピカに輝いていた。庄司さんの手際よさに感心すると同時に心の中で感謝した。問題はピアノを弾く伴奏者だった。コンサートを決めた最初は、地元の学校の音楽の先生が弾いてくればと考え、すぐ見つかるだろうと思っていたのだが、なかなか見つからなかった。どうやらドイツのプロが来るというので、なかなか手が挙がらなかったようだ。一人東京で見つけたが、旅費負担とかいって来たので、気が進まず、古い友人のピアニストにまで声をかけたら、やっと一人大船渡で見つかり、すぐに電話をした。うまく話が通じ、ほっと一安心と思ったのも束の間、翌日大船渡の世話人の今野さんからメールが入り、この方が倒れたとのこと。一難去ってまた一難。その後今野さんの奥さんがピアニストを捜してくれ、ことなきを得た。

11日の演奏会には上長部の地元のおかあちゃんの会のメンバーが食べ物を用意してくださり、植樹の後昼ご飯を食べる。午後の1時から演奏会が始まる。ピアニストの方が伴奏し、フラウケが歌い、クラウスがフルートを吹く。市川のありんこ隊のメンバーの石井さんもクロマチックというハーモニカで花を添える。1時間以上演奏が続き、最後に「故郷」をフラウケのリードのもと全員で合唱した。木の香りがただようベルリンハウスの音響効果も素晴らしかった。



16日は毎回行われている立根町との皆さんとの交流会があり、そこで30分の短い演奏を入れる。ピアノもないので、東京の友人に頼んで録音してもらったCDをアンプで流したが、途中でテンポが



合わなくなり、結局フラウケは伴奏なしで独唱する。

17日は大船渡の長洞仮設住宅団地の公民館で団地に住んでいられる熊谷さんの伴奏で演奏した。ここにもピアノを寄贈をと声をかけたが、電子ピアノがあるし、場所を取るという理由で実現しなかった。演奏会は大成功で涙を流し感動している方もいた。

演奏会と並行して数人の男子メンバーは、団地の友結ファーム(菜園)で会長の阿部さんと一緒にビニールハウスの枠組みを組み立てた。

### 3) 植樹(11日午前:上長部)

昨年10月に上長部のベルリン・ハウスの隣りの敷地にリンゴの木を25本植えた。ところが、今年の



冬の厳しい寒さのせい、ほとんど枯れてしまったとの連絡が4月に届き、とてもがっかりした。我々が植えた紅玉は全滅で、数本の津軽はうまく根付いたそうだ。「遠野まごころネット」の好意により今回植樹を再び行った。津軽は寒さに強いので、津軽を植えたらと提案したが、地元の方々は大きな実になる紅玉を再トライしたいとの返事だったので、お任せした。すでに新芽が出始めた時期なので、植樹の方法も前回とは違い、練り植えとい

う仕方では植樹をした。まず適当な穴を掘り、そこに土を入れる。さらにたくさんの水を注いで、ドロドロにした土の中に苗木を刺し入れた。今度こそ無事に育ってほしいものだ。

### 4) 牡蠣の株分け(15日:陸前高田)

陸前高田のVC(=volunteer center)が昨年末に活動を終了した。陸前高田の被害状況から判断して、まだまだニーズがあると思っていたので、それを聞いたとき、どうしても自問したものだ。3月末頃から情報を集めはじめてみると、陸前高田市の社会福祉協議会が決定したとのこと。その代わりに新しいNPOが陸前高田市復興サポートステーション(陸前高田はまだニーズが多いので、毎日開いている)を開き、ボランティアの受け入れをしている。15日の水曜日は8時半の集合時間に間に合うように宿泊所の福祉の里センターを7時半に出た。サポートセンターに着くと、すでに2台の大型バスが駐車していた。神戸から来た会社のボランティアだった。申し込みやオリエンテーションや道具の借り出しなどの手続きは前のVCとほとんど変わらなかった。センターを出発する時にセンターのみなさんが出口に立っていつてらっしゃいと手を振る儀式も同じだった。我々は二つのグループに分けられ、一つは綿花の木の植樹、もう一つは漁業関係の作業に振り分けられた。指定された漁港に行ってみると、おじさんとおばさんが待っていて、牡蠣の株分けをするとのこと。

作業の手順の具体的な説明があった。大きな作業機の上にたくさんの牡蠣の塊がおかれていた。



3年間養殖筏に吊るされ、海中に入っていたもので、周りにたくさんのムール貝や海鞘(ほや)などがこびりついていて、その間からはゴカイなどの虫がよろよろと這い出てきていた。これらの余計なものを鉋のような道具でこそげ落とし、大中小の大きさに分別するのだ。この株分けの後牡蠣はまた海中に降ろされる。そして、出荷されるのを待つのだ。この作業はとても汚れるので、ボランティア活動定番の作業着とゴム長だけで

はだめと言われ、依頼主がゴム引きのつなぎを貸してくれた。汚れもひどいが、けっこう力の要る作業だった。時々鉋がすべって貝殻を傷つけると、牡蠣のむき身が出てしまう。するとメンバーの小クラウス(通称。クラウス・ルプレヒト)に提供した。牡蠣が大好きらしく、喜んでその牡蠣をすすっていた。2時間立ちっぱなしで作業をすると、12時の昼休みが待ち遠しかった。午後も作業を続けていると二つ目のグループが綿花栽培の作業が終わったといって、我々のところに回って来た。2時半過ぎには作業を終える。すると、息子さんが海に牡蠣を吊るす作業を終えて戻って来た。そして、食べなよといくつかの牡蠣を手際よくむいでくれた。筆者も二つほど食べたが、レモンもなく、酢もなかったので残念ながらそれほどおいしいとは思わなかった。

綿花栽培のグループは津波の被害のあった畑に綿花の苗木を植えたのだそうだ。綿花の木は塩害にも強いといわれ、市から依頼されたプロジェクトだそうだ。

17日には復興状況を見るために大船渡の漁港を見学した。世話人の今野さんに相談すると気仙沼港の方が取扱量が圧倒的に多いので、そちらにしたらと言われた。だが、到着時間の朝6時



の問題(車で1時間以上かかる)と昼から長浜仮設住宅での交流会があるので、断念した。朝6時に大船渡の港に行き、魚市場を覗く。たしかに大きなセリもなかったし、魚の量も多いとはいえなかったが、市場の人々は親切に質問に答えてくれた。7時になると沖の定置網で獲れた魚を積んだ大型の船が戻ってきた。忽ち港は活気に満たされた。船の中の生け簀に何トンもの魚がつまっている。大きな網で魚をすくって、コンテナ状の容器に入れる。そこから魚がベルトコン

ベヤーに載って運ばれるが、それらを両側に陣取った仕分け人たちが魚の種類と大きさに分けて、樽の中に放り込むのだ。大漁に近いとあってだれもが浮き立っていた。漁獲高は震災前の8割まで戻ったそうだ。津波で相当ダメージを受けた隣りに、新しい魚市場が建てられつつあった。来年



の3月に完成するそうだ。一段落した後、我々は漁港内の食堂にいて、おいしい朝食をとった。

## 5) 田植え(16日:陸前高田市気仙町)

まずはベルリン映画祭から話をしなければならない。筆者は1982年から縁があってベルリン映画祭のフォーラム部門を準スタッフとして手伝っている。今年の日本からの招待作品に池谷薫監督の『先祖になる』があった。そこでは津波で家を流され、御子息を失った気仙町の佐藤直志さんが撮られている。犠牲を跳ね返して生きる佐藤さんの生き様に感動し、監督に橋渡しをお願いした。そこで紹介された菅谷さんに電話すると16日に田植えをするので参加しないかと誘われた。団員に計ったところ、一もなくやりたいとの返事が返って来た。そこで9時までに気仙町の集合場所に行ってみると、すでにたくさんの人が集まっている。中心にはスクリーンで見慣れた佐藤さんがいた。早速挨拶すると、ドイツから参加とはうれしいなの反応。佐藤さんが慣れた手つきで田植えの要領を教える。はじめはゴム長で田んぼに入ってみたが、ドロが長靴にくっつき、歩けない。みんなゴム長を脱ぎ、裸足で入る。1時間足らずで一枚の田んぼの田植えが終わり、山の中腹にある寺の庭に上がる。水道で汚れた足を洗う。昼近くになり、今回の田植えを企画した日本酒「酔仙」醸造元から酒、あんこ餅、おにぎり、そして豚汁が振る舞われる。舌鼓をうち、佐藤さんと話をし、記念写真を取る。佐藤さんはとても上機嫌で、さかんに愛嬌を振りまいていた。



午後は近くの畑で小石を取り除く作業をした。こぶし大の石がごろごろしていた。

夕方は立根町の皆さんとの恒例の交流会があり、旧交を暖めた。

## 6) 「かならずら」プロジェクト(12日:大槌町)

前回のお別れの日「遠野まごころネット」の臼澤さんが、怪我をした副会長のフランクに手渡したのが「白い森」プロジェクトだった。ドイツの黒い森にもじったネイミングだった。初めはよく分からなかった。獅子舞などに使う鉋で削った薄い木の短冊上のもを「かならずら」という。そのたてがみを表す「かならずら」は40年も樹齢を経たまっすぐのドロの木(ポプラの木的一种で、水分が多く、いくらこすっても火がつかないところから、アイヌ人がドロの木と名付けたらしい)を機械で削って作

る。大槌町でそのために大掛かりな植樹をしているので、支援を乞うとのことだった。それを見せてもらうために、大槌町を訪れた。最初に地域の鹿子舞を保存する会が運営する伝承館に案内される。有志が建てた立派な建物で、津波の時には避難所に使われたそう。ドロの木から削れ出された「かななずら」を見せてもらう。厚さは0.2ミリ、長さは2メートル20センチで、このようにまっ白な質のいいものを作るには、まず40年も育った木が必要とのこと。ただ、このプロジェクトに我々がドイツからできるのは、せめて数㎡の土地に育つドロの木の権利を買い取り、いわゆる養父母として見続けることぐらいだろうと言ったら、保存会会長の東梅英夫さんからまさにそのような支援を期待しているとの返事が返って来た。説明の後「遠野まごころネット」の大槌町の弁当作りのみなさんが心を込めて作ってくれた昼ご飯をご馳走になる。その後に玄関の前で鹿子舞(獅子の顔形ではなく、鹿の頭だった。だから 鹿子舞と表記されていた)を披露してくれた。午後は車で山に向かい、植林場所を見学した。4年ほど成長した苗木が植えられていた。所々に10年近い若木も見られた。支援の可能性を考えようと約束して、別れた。

午後は建設予定地に案内される。ロベルト・ボッシュ財団の支援により大槌町の吉里吉里にコミュニティーセンターが建設される計画だったが、公営の下水道が敷かれないうちになり、新しい敷地になると「遠野まごころネット」から連絡があった。元の予定地は山の上で期日内に造成できるのかと危ぶんだが、新建設地は開けていて、その点に関しては問題ないようだ。ただ、新しい設計図を見せてもらうと、目的が違っている。ボッシュ財団が了承するには相当の説得が必要に思われた。

## 7) 畑の小石拾いと犠牲者の碑(13日:気仙沼)

気仙沼復興支援センター(水曜日が休み)に8時半に間に合うように朝ご飯を食べないで7時に出発した。途中コンビニに寄って、朝ご飯と昼ご飯を買い入れる。時間通りに着くと去年の10月にも訪れた時と同じメンバーが出迎えてくれた。一緒に作業現場に向かう。畑の小石取りだが、手始めてみるとこれが結構手強い。根っこから取ろうとすると、畑の土が粘土質なので、草を抜いただけではだめで、きちんと深く掘らないといけない。そのためなかなか進まず、苦勞した。150平米ほどの畑を何とかこなしたが、とても満足いくものではなかった。拾うべき石はほとんどなく、草取りに終止したからだ。



昼休みに近くの小高い丘に犠牲者の碑があるので見に行った。海を望む景色のいい半島には杉



の下という集落が3月11日まで存在し、海拔15メートルほどの小高い丘が津波の避難所になっていた。集落の住民はもちろんここに集まれば、安心と思い、駆け集まったに違いない。ところが津波は18メートルにも及び、95名の全員が亡くなったそうだ。その犠牲者の名前が刻まれた石碑を見ていると、何となく寒気がしてきた。怨念といおうか、何かが感じられた。きれいに磨かれた石碑の表面に我々の姿がはっきりと映っていたのもそのような気持ちにさせたのかもしれない。

## 8) 「翼」プロジェクト(岩手県高校生のベルリン招待):高校生の面接(18日:遠野市)



JAPAN UND DEUTSCHLAND  
"TSUBASA - FLÜGEL" - PROJEKT DER FREUNDSCHAFT FÜR SCHÜLER

翼

T S U B A S A  
日独高校生交流プロジェクト

震災は私たちに世界の人々との絆を改めて思い起こさせてくれました  
海を越えて多くの人々が私たちに励ましを届けてくれたのです  
今ドイツの友から被災地の未来世代にあたたかい招待状が届いています  
今度は私たちが海を越えて友たちに笑顔をお返しに行きましょう

岩手県内被災地の高校生を2013年から17年までの5年間、毎年5人ドイツへ招待交流

**ドイツ交流訪問**  
2013/8/6(火)~15(木)

一次選考(書類審査)応募締切:2013/4/25(木)(消印有効) 二次選考(一次選考通過者 面接・筆記):2013/5/18(土)または5/19(日)を予定  
【訪問・イベント予定】ドイツ人家庭でのホームステイ、ドイツの若者とのワークキャンプ(ベルリン市内で2泊3日)、  
ドイツの高校生との交流(ディベート)、講演、高校及び大学訪問、ベルリン市内の博物館・美術館、  
フリップ・ハーバー研究所(原子核分裂を最初に発見)など訪問、市長訪問、政党訪問、ボクシング訪問、観光、歓迎会と送別会

我々が被災地に行き、ボランティア活動をするだけではなく、被災地からドイツに若者を呼びたいという考えは、2011年の9月の最初のボランティア活動の時に大船渡高校の生徒達と交流した際に生まれた。彼らは災害の後、地域の復興のために役立つ人になりたいと述べていた。そのために外国の人と交流をして、見聞を広げたいとも。それなら彼らをドイツに招待し、同じ年齢のドイツの若者と交流させ、また少しでもドイツ社会を知ること何らかの役に立つはずだと考えたからだ。大船渡高校の先生方に話を持ちかけたが、積極的な返事は得られなかった。日本でのパートナーが得られないうちは実現が難しく、頓挫した形になっていたが、今年の初めに「遠野まごころネット」が協力してくれることになり、動き出した。さら

に助成金を申請していたロベルト・ボッシュ財団から3月末に助成決定の連絡があり、一挙に実現の一步を踏み出した。「遠野まごころネット」が4月初めに岩手県のメディアを使って、公募を開始した。我々がドイツを出発するまでに書類選考を済ませ、5月18日に最終面接をするように決めた。これらの準備をしてくれた「遠野まごころネット」の日向祥子さんから11日の上長部でのコンサートの前に20人の動機文や履歴書などの応募書類を受け取った。面接には筆者以外に副会長のフランク・ブローゼ、ブリギッテ、フランク・バイヤー、ヤーナ、それに通訳として頼子さんが参加することになった。日本語に堪能なフランク・バイヤーが他の3人に書類をドイツ語に口頭で訳してくれた。



ボランティア活動の合間を縫っての作業だったので、相当きつかっただろう。25人が応募し、14人の女子高校生と6人の男子高校生が書類選考を通った。

18日は面接場所の遠野市の市民サービスセンターに約束の9時に到着した。「遠野まごころネット」からは理事長の多田さん、理事の臼澤さん、プロジェクト・マネージャーの及川さん、さらに日向さんが参加した。まず面接直後に合格を1、保留を2、不合格を3にして採点しようと決めた。点が少ないほど優秀ということになる。

最初の面接は大船渡の女子高校生だった。筆者が口火を切る形で、応募した動機を延べてほしいと始める。そこから、あるいは履歴書や通信簿からの情報を手がかりにしていづつか質問が出る。最後の3分間にヤーナが英語で質問をした。最初は緊張し切っていたが、危なげなく15分を乗り切った。全員の評価を集める。5人面接した後、大体のレベルが分かったので、評価点を再検討する。15分ごとに面接を繰り返した。何人かの女子は素晴らしく、すぐにでもベルリンに連れて行きたいと思うほどだった。英語が意外にネックになり、ヤーナの簡単な質問にも全く答えられなかった生徒が何人かいた。多田さんから、内陸の高校生は英語が非常に弱いので、少し勘案してほしいとの頼みがあった。その上農業高校では英語の授業がないとのことだった。たしかにこれでは不公平だと思ったが、まったく英語ができないのも問題なので、英語の質問に凍り付いてしまった応募者は残念ながら、結果として選ばれなかった。女子が圧倒的に優秀で、やっと男子が一人選ばれ、ほっとした。面接が終わったのは5時近かった。晩のお別れ会に間に合うように車に飛び乗り、帰路についた。ナビ通りに走っていたら、釜石まで持って行かれ、散々ナビの悪口を言った。後で分かったが、途中渋滞があり、渋滞回避のナビを積んでいない他の人たちはもっと後に到着した。センターに着いたのは6時40分にならんとしていた。

## 9) お別れ会(18日:福祉の里センター)

毎回活動の最後の晩にお世話になった方々、一緒にボランティア活動をした方々、交流があった方々を福祉の里センターにお招きし、食事をしたりして、懇親会を行うのは恒例になっている。今回も20名ほどの方がいらしてくれた。いたるところに何人かによる人の島ができて話が弾んだ。途中フラウケとクラウスが飛び入りで演奏をして、拍手喝采を受ける。9時になり、多くの方からお別れの言葉を頂いた。地元の方からは感謝の言葉と同時にいか



にこのような絆に力づけられたかという挨拶が多かった。我々も逆に元気を頂いて帰るのだと言える。ボランティア活動では互いに力づけられると言う一種の人間関係の化学的触媒反応が起きるようだ。筆者も含めてみなさん大分感傷的になった。

## 10) 追記(19日:車で南下)

19日の朝にグループを解散する。車組は二台の車に乗り、海岸を南下する。気仙沼では昨年10月に大谷海岸を掃除した時に、庭の手入れもした海洋観に寄り、コーヒーを飲む。コーヒーの代金を払おうとするが、女主人が我々を覚えてくれて、受け取ってくれない。津波で壊されなかった結婚式場の隣りに宿泊施設を建設中だったが、例の防潮堤の問題は解決していないそうだ。国及び県はあくまでも津波に襲われた地域の海岸線に高さ10メートルほどの防潮堤を建てるというのだ。リアス式海岸線が織りなす美しい景観は大事な観光資源なので、資源を破壊する防潮堤に反対しているが、結局建つことになるだろうと彼女は言っていた。海岸ではなく、道路際に建てるなどを提案して、現在も交渉中だそうだ。

今回目についた風景に広い範囲での盛り土がある。土地をかさ上げしているのだ。陸前高田では町全体を5メートルほどかさ上げするのだそうだ。大槌町では10メートルもの高さのかさ上げが計画されている。山地を削って宅地造成するよりは費用が半分で済むというので、多くの被災地でかさ上げ方式が優先されているらしい。だが、多くの住民がかさ上げされた土地の安全性に不安を感じているとも新聞に書かれていた。

前回にも訪れた南三陸町は大きな建物残骸はほとんど撤去され、町全体が広大な更地になっていた。石巻にも寄るが、大都市なので被害の全体状況はよくつかめない。夕方5時過ぎに秋保温泉に到着する。前回も泊まった佐藤屋旅館に厄介になる。こじんまりとした気持ちのいい旅館だ。

## 11) 追記(5月21日:希望の牧場)

今回も前回に続いて「希望の牧場」を訪ねた。前回会えなかった代表の吉沢さんが応対してくれた。とても馬力のある方で、東電や政府に対して憤懣やるかたないという感情が言葉の端々からほとばしり出ている。吉沢さんのところには現在350頭の和牛がいるそうだ。この2年間で150頭ほど死んだが、同じぐらいの数の子供が生まれたそうだ。毛並みがつつやとして、栄養が行き届いている元気そうな牛がいる反面、小判上の白い斑点が皮膚に見られる牛もいる。白い斑点は放射能の影響ではないかと吉沢さんは疑っていた。吉沢さんはこれらの牛を東京に連れて行って、東電本社や首相官邸にデモをしたいとも言っていたが、同感だった。西部劇映画で見られるように永田町界隈を牛の群れが暴走する痛快なシーンが頭に浮かんだ。我々が被曝の問題を気にして、質問すると、ひどい





時には6000ベクレルほど被曝したとおっしゃる。現在は2000ぐらいじゃないかなとも。我々は吉沢さんの決死の覚悟に圧倒されて、牧場を後にした。なにがしかの連帯の印を差し出した上で。

## 12) 追記(5月24日:市川市の復興支援チャリティコンサート)

5月24日に市川市で復興支援チャリティコンサートが行われ、市川三中のありんこ隊の仲間がエントリーをしたので、残っていた5人が舞台上で挨拶し、さらにフラウケがシューベルトの「野バラ」を歌った。文化会館の小ホールで400人ぐらいの観客が集まっていた。入り口ホールでは「絆・ベルリン」の活動写真をパネルにはって展示した。何人かの市川市民から、わざわざ遠いところからありがとうと声をかけられた。



## 13) 追記(6月2日:福島市の六魂祭)

5月末に東北にプライベートな旅をした。青森の友人を訪ねた後、新幹線で東京に帰る途中、福島市で復興支援の一環として東北六県による盛大な祭り「六魂祭」が行われていることを知り、新幹線を降りて、見学した。1日土曜日には12万人の人出があったと新聞に出ていた。駅を降りると延々と人が歩いている。筆者も駅を出て人の流れにまぎれてしばらく歩くと祭りのパレードが行われていた。長い竿にたくさんの提灯をつけて、一人が額でバランスを取って練り歩く秋田の竿灯祭がとてもおもしろかった。大分風も強く、竿灯が倒されたりしたが、何度も挑戦し、うまく操れた時の姿には感動した。日本の祭りには人を高揚される何かがあるようだ。これも筆者にとって新しい体験だった。



## 14) 追記(6月7日:「絆・ベルリン」活動報告。桜美林大学東アジア研究会にて)

桜美林大学東アジア研究所所長の川西教授が「絆・ベルリン」の活動を評価し、市ヶ谷の私学会館で開かれた研究会に呼んでくれた。40人ほどの参加者を前にしてパワーポイントで「絆・ベルリン」の活動中に撮った写真を見せながら30分ほど報告する。首都圏在住の仲間も6

人出席し、無言のサポートをしてくれる。発表会の後、市ヶ谷の大衆飲み屋で別れを惜しんだ。

## 15) 追記(これからの活動)

19日の解散の後、「絆・ベルリン」のボランティア活動がこれで終わってしまうのかと思うと、とても寂しいという声が何人かのメンバーから寄せられた。2年間の間に東北の被災地で4回ボランティア活動をしたが、ボランティアができる側溝のドロ上げなどの肉体的な作業は陸前高田を除いてはほとんどなくなったと言ってもいいだろう。観光でもいいから来てくれという声を何度も現地で聞いたが、やはり何か支援の作業をしないことには行く甲斐がない。これからは「翼」のような息の長い、違った形の復興支援活動が求められるだろう。模索していきたい。

今回は事故もなく無事に終了し、ほっとしている。みなさんのサポートのおかげと感謝したい。岩手県から5人の高校生が8月にベルリンに来るのが待ち遠しい。準備は大変だが、楽しさも半分だ。

6月14日 ベルリンにて

福澤啓臣

## 16) 日別活動表

| 5月    | 午前                  | 午後                   | 備考            |
|-------|---------------------|----------------------|---------------|
| 9(木)  | 成田着(市川泊)            |                      | 到着祝い          |
| 10(金) | 大船渡へ: 車二台市川出発       | 新幹線、一関より             | 結団の集い         |
| 11(土) | 上長部作業: 植樹           | ベルリン・ハウス演奏会／交流会      |               |
| 12(日) | 大船渡VC: 側溝の泥上げ       | 左に同じ。                | ミーティング        |
| 13(月) | 大槌町: 「かんながら」計画      | 白い森視察+ 大槌CC建設地見学     |               |
| 14(火) | 気仙沼VC: 畑の石拾い        | 左に同じ。                | ミーティング        |
| 15(水) | 陸前高田SC: カキの株分けと綿花植樹 | 左に同じ。                | 立根町住民との交流会    |
| 16(木) | 陸前高田: 田植えと小石拾い      | 左に同じ。4時から大船渡市長訪問     |               |
| 17(金) | 大船渡                 | 長洞仮設住宅訪問: 作業、演奏会、交流会 | ミーティング        |
| 18(土) | 「翼」高校生面接／大船渡VC      | 「翼」高校生面接／大船渡VC       | お別れ懇親会+ミーティング |
| 19(日) | 朝食後解散               | 主力グループ車で南下           | 車組秋保温泉宿泊      |
| 20(月) | 福島県浪江町「希望の牧場」訪問     |                      | 車組市川到着        |



## 17) 参加者リスト

|    | Name                  | 名前             | 現在地    | 参加回数    |
|----|-----------------------|----------------|--------|---------|
| 1  | Dr. Hiroomi Fukuzawa  | 福澤啓臣           | ベルリン   | 4 (団長)  |
| 2  | Dr. Frank Brose       | フランク・ブローゼ      | ベルリン   | 4 (副団長) |
| 3  | Brigitte Brose        | ブリギッテ・ブローゼ     | ベルリン   | 4       |
| 4  | Klaus Rupprecht       | クラウス・ルプレヒト     | ベルリン   | 2       |
| 5  | Frank Beyer           | フランク・バイヤー      | ドレスデン  | 2       |
| 6  | Claus Schnarrenberger | クラウス・シュナレンベルガー | ベルリン   | 2       |
| 7  | Jana Riedel           | ヤーナ・リーデル       | ベルリン   | 2       |
| 8  | Frauke Twork          | フラウケ・トゥヴォルク    | ベルリン   | 1       |
| 9  | Anna Hesse            | アンナ・ヘッセ        | ベルリン   | 1       |
| 10 | Dr. Yoriko Yamada     | 山田頼子           | ベルリン   | 3       |
| 11 | Shōjirō Muramatsu     | 村松庄次郎          | 市川     | 3       |
| 12 | Fumiko Hirose         | 廣瀬芙美子          | 市川     | 4       |
| 13 | Yasumasa Murase       | 村瀬靖昌           | 愛知     | 4       |
| 14 | Kiyohide Ishii        | 石井清秀           | 市川     | 3       |
| 15 | Mitsuko Totani        | 戸谷美津子          | 川崎     | 2       |
| 16 | Keiko Tsuchiya        | 土屋恵子           | 草加     | 1       |
|    |                       |                |        |         |
|    | Sadashi Kon'no        | 今野定志           | 大船渡世話人 | 4       |
|    | Mitsuko Kon'no        | 今野光子           | 大船渡世話人 | 4       |